

2022 年社友会秋の懇親会 ・ 第 84 回歴史探訪の会

日時： 令和 4 年 11 月 16 日(水曜日)

場所： 奈良県・橿原市

世話人： 内海春樹

コロナで 2 年間実施できなかった社友会秋の宿泊懇親会を今年は日帰りで行う事になり、その世話役を歴史探訪の会代表内海が企画推進する事になりました。そこでこの催しを歴史探訪の会 11 月例会を兼ねて実施しました。

- ・第 1 部 散策コース 橿原神宮前駅 ～ 橿原神宮～若櫻友苑～神武天皇陵
見学コース 橿原神宮前駅 ～ 橿原考古学研究所付属博物館
- ・第 2 部 懇親会 12 時 30 分～14 時 30 分 於) 大和ロイヤルホテル
司会進行： 松田事務局長
開会挨拶・乾杯： 嶋本会長
見学コース説明(13 時 30 分頃から約 20 分)： 内海春樹(2579)
ゲーム
中締め挨拶： 森 顧問

秋晴れに恵まれ 78 名が近鉄橿原神宮前駅に集合、2 班に分かれてそれぞれのコースに出発しました。

第1部「散策コース」参加者 31 名

田原さん達歩こう会メンバーの引率で黄色く色づいたイチョウ並木の参道を進む。しばらくすると昨年新しく立替えられた橿原神宮の一の鳥居が現れる。

①橿原神宮は初代神武天皇及び皇后を祀るため 1890 年(明治 23 年)4 月 2 日に創建された。本殿などは京都御所の建物が移築された。正門の手前の深田池にはマガモやおしどりなど渡り鳥が羽を休めている。1940 年(昭和 15 年)には昭和天皇が同神社に行幸し、日本各地で紀元 2600 年奉祝式典が挙行された。その後も代々天皇・皇后両陛下を始め皇族の参拝が続いている。

外拝殿で参拝後、丁度境内で行われている「菊祭り」を見る。大輪の菊や盆栽の小菊が見ごろでありました。



②次に神宮が管理する若櫻友苑（昭和 48 年 11 月開園）を訪れる。

ここには、太平洋戦争末期、海軍飛行機搭乗員として若い命を国に捧げ海に消えた第13期海軍予科練習生出身の 1,000 有余名の御霊を祀る「甲飛13期殉国の碑」が建てられ、さらに昭和 19 年 10 月フィリピン、レイテ湾作戦に参加し、沈没した航空母艦「瑞鶴」の戦没者を祀る碑が生存者や遺族の手によって昭和 53 年に建てられました。毎年 4 月 10 日に遺族達により慰霊祭が行われます。私達も若い命を国の為犠牲にされた方々に手を合わせました。

③神宮に隣接する神武天皇陵を参拝しました。さすがに初代天皇の陵墓とあって長い杉の並木道を進み正面に立つ立派な門付きの鳥居が3基並んだ先に御陵がある。明治天皇以降代々の即位や皇族方の結婚など節目に参拝されている。皇室にとって伊勢神宮と並んで重要な所であります。予定通りの見学を終え、12時過ぎ懇親会場のロイヤルホテルへ着く。



第1部「見学コース」参加者 41名

歴史探訪の会メンバーの引率で野球場や陸上競技場の横を通り橿原考古学研究所附属博物館へ到着。コロナの関係で館内の案内が出来ないので、外で概略説明を行う。

橿原考古学研究所附属博物館の説明

橿原考古学研究所は「皇紀 2600 年記念事業」の橿原神宮外苑整備事業に伴い橿原遺跡調査のため京大の末永雅雄博士が事務所を設けたのが始まり。高松塚古墳、藤ノ木古墳などの発掘が有名でこれらの発掘された遺物を一般公開するために博物館を開設された。丁度、今の時期は秋の特別展として「宮廷苑池の誕生」を催しています。苑池というのは今でいう庭園のことで、人工的に自然の風景を作り出した所です。

今回の展示は約 1350 年前、37 代斉明天皇が都とした飛鳥宮廷のそばに、水と石を配置した庭を造らせたものです。(20 数年の発掘調査成果による)我が国では古来「水と石」への信仰心が強くこれを巧みに組み合わせ、天皇の権威を見せる事になる。これが後の日本庭園の基礎となる。

(エントランス 石造噴水など)



①特別展示室（宮廷苑池の誕生）

入り口には飛鳥の猿石が展示されている。

日本書記(版本)・亀形石槽・木簡・伎楽面・石人像・海老錠など、苑池から発掘された斉明天皇時代の貴重な品々が見られた。

②第1展示室（旧石器時代、縄文時代、弥生時代）

二上山からとれた石(サヌカイト)で作られたナイフや矢じり、土偶、巫女による祈り、銅鐸の作り方など

③第2展示室（古墳時代）

奈良の各古墳から発掘された埴輪はその大きさや種類の多さにみんな感嘆の声があがりました。特に藤ノ木古墳の金銅製鞍金具、龍文飾り金具、などのデザインや精巧な技術は見事の一言です。



④第3展示室（飛鳥、奈良、平安時代）

飛鳥の宮 模型、高松塚古墳壁画(飛鳥美人)復元陶板、太安万侶の墓誌、仏教の広まり(仏像・遷仏 など)。

⑤第4展示室（江戸時代）

展示物はいずれも国宝級の物ばかりで見学しきれない思いの方も多いが、又の機会としてロイヤルホテルへ向かいました。



第2部 懇親会 大和ロイヤルホテル 12時30分より

社友会の松田事務局長の進行で、嶋本会長の挨拶・乾杯で懇親会を開始。久しぶりに顔を合わす人も多く会場のあちこちで話と笑いが起こる

13時10分より、歴史探訪の会 内海による当日の見学場所などの解説と、神武天皇の東征についての説明をおこなう。

古事記によると2698年前、初代神武天皇となる“カムヤマトイハレビコノミコト”が高千穂宮を旅立ち、橿原で即位するまでのものです。

イハレビコの東征は126代続く皇室と、歴代天皇が治める日本の始まりとなるものです。神武天皇は天照大神の五世孫として高千穂で生誕。15歳で立太子に即位。日向(今の宮崎県)は火山の噴火や台風など自然災害が多く、稲作に向かない事から、「東方に美しく青山が四方をめぐり天下を治めるにふさわしい所がある」との進言から3人の兄とともに東征を実行します。

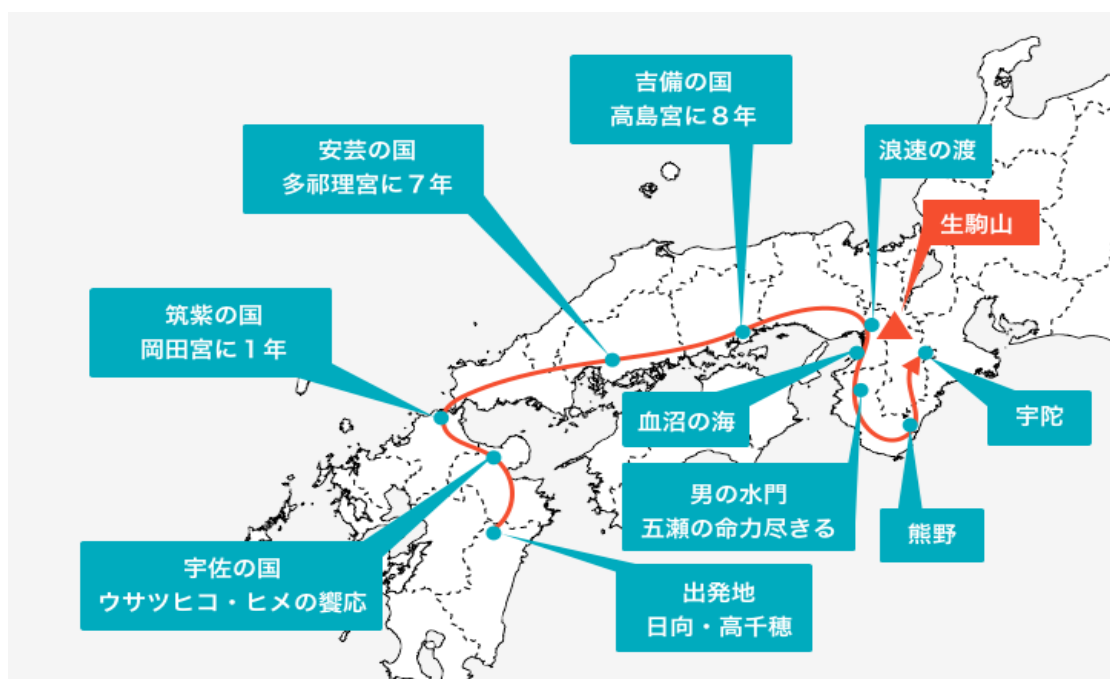
東征途中に地元の豪族との争いや嵐などで3人の兄たちを亡くしながらも進軍を進め、天照大神からつかわされた“八咫鳥”や“鵄”の助けにより宿敵を倒し数々の苦労の末、大和畝傍山麓に宮を構え、紀元前660年2月11日初代天皇として即位した。



懇親会はその後、松田事務局長の軽妙な進行でゲームをして当選者が賞品を受け取る。

受賞者を代表して川邊さんの挨拶、続いて森顧問による社友会本部の取り組みなどを紹介し三三七拍子で締めくくりました。

「神武天皇東征のルート」





「金鷄」を掲げる神武天皇



平成 30 年両陛下から下賜された銅鏡 ”檀原の杜“